

CASBEE[®]-不動産【集合住宅】評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-不動産【集合住宅】(2021年SDGs対応版) v1.2.1

建物概要					
建物名称	SIDE One	敷地面積	838 m ²	評価の段階	運用段階評価
建設地	千葉県千葉市中央区	建築面積	586 m ²	評価の実施日	2023年9月26日
用途地域	商業地域、防火地域	延床面積	6,302 m ²	作成者	福士 明子
建物用途	共同住宅	階数	地上15F	不動産評価員番号	ふ-001189-27
竣工年月	2008年12月17日	構造	RC造、一部S造	確認日	2023年11月6日
直近の大規模改修実施年月		平均居住人員	154 人	確認者	福士 明子
		年間使用時間	8,760 時間/年	不動産評価員番号	ふ-001189-27

評価結果					
74.8	/100	合計	★★★★★	S ランク:★★★★★	≧ 78
(得点	/満点)			A ランク:★★★★	≧ 66
				B+ランク:★★★	≧ 60
				B ランク:★★	≧ 50
ポイントは小数点第1位までの表示とする					

1. エネルギー／温暖化ガス					
評価	最大加点	指標	(*)は参考値	評価値	
適合		必須項目	:省エネルギー基準への適合、目標設定、モニタリング、運用管理体制		
		根拠等	実績値より省エネ基準への適合、年間実績を把握、ベンチマーク比較実施、次年度省エネ目標設定	一次エネルギー(目標値)	235 MJ/m ² ・年
15.0	20	1.1 使用・排出原単位(計算値)		一次エネルギー(計画値)	237.7 MJ/m ² ・年
		根拠等	実績値より	二次エネルギー(*)	24.4 kWh/m ² ・年
				CO ₂ 排出量(*)	11.6 kg-CO ₂ /m ² ・年
5.0	5	1.2 使用・排出原単位(実績値)	共用部の評価	一次エネルギー(実績値)	237.7 MJ/m ² ・年
		根拠等	エネルギー消費量実績値一覧参照	二次エネルギー(*)	24.4 kWh/m ² ・年
			二次エネルギー＝一次エネルギー/9.76	CO ₂ 排出量(*)	11.6 kg-CO ₂ /m ² ・年
1.0	5	1.3 省エネルギー(仕様評価)	専有部の省エネ対策	導入された対策項目数	1.0 項目
		根拠等	[3]	利用率	%
3.0	5	1.4 自然エネルギー	導入していない		
		根拠等			
24.0	30	合計			

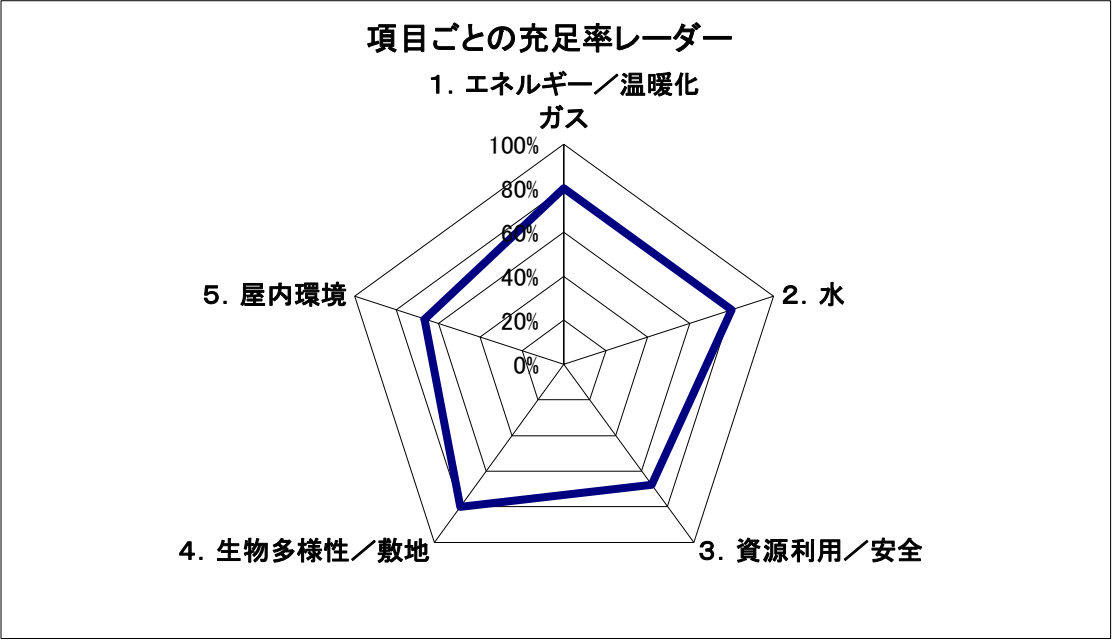
2. 水					
評価	最大加点	指標		評価値	
適合		必須項目	:目標設定、モニタリング、運用管理体制		
		根拠等	水消費実績を把握、次年度省エネ目標設定	水使用量(目標値)	L/m ² ・年
	0	2.1 水使用量(計算値)	評価しない		
3.0	5	2.2 水使用量(仕様評価)		水使用量(計画値)	L/m ² ・年
		根拠等	[1]、[2]		
5.0	5	2.3 水使用量(実績値)		水使用量(実績値)	10.4 L/m ² ・年
		根拠等	水使用量実績値一覧参照		
8.0	10	合計			

3. 資源利用／安全					
評価	最大加点	指標		評価値	
適合		必須項目	:新耐震基準への適合またはIs値、If値		
		根拠等	新耐震基準に適合	なし	
3.0	5	3.1 高耐震・免震等	3.1.1と3.1.2の点数の高い方で評価		
3.0		3.1.1 耐震性			
		根拠等	建築基準法に定められた耐震性を有する		
3.0		3.1.2 免震・制震・制振性能			
		根拠等	導入していない		
3.0	5	3.2 再生材利用率・廃棄物処理負荷抑制	3.2.1と3.2.2の平均で評価する		
		3.2.1 再生材利用率	①と②の平均で評価する		
3.0		① 躯体材料	使用していない	リサイクル材品目数(非構造材)	1 品目
3.0		② 非構造材料	リサイクル資材を使用している		
3.0		3.2.2 廃棄物処理負荷抑制		取組数	3 ポイント
		根拠等	[1]、[2]、[3]		
4.0	5	3.3 躯体材料の耐用年数		経過年数＋今後の想定耐用年数	50 年
		根拠等	劣化対策等級2	3.4.1,3.4.2,3.4.3,3.4.4の平均	
3.5	5	3.4 主要設備機器の更新必要間隔／設備の自給率向上／維持管理／バリアフリー		更新年数の平均値	20 年
4.0		3.4.1 主要設備機器の更新必要間隔		自給率向上の取組数	項目
		根拠等	計算式参照		
1.0		3.4.2 設備(電力等)の自給率向上		維持管理に関する取組数	13 ポイント
		根拠等	特になし		
5.0		3.4.3 維持管理			
		根拠等	[1]～[6]		
4.0		3.4.4 バリアフリー対策			
		根拠等	建築物移動等円滑化基準を満たしている		
13.5	20	合計			

4. 生物多様性／敷地					
評価	最大加点	指標		評価値	
適合		必須項目	:特定外来生物・未判定外来生物・生態系被害防止外来種を使用しない		
		根拠等	特定・未判定外来生物、生態系被害防止外来種を使用していない	なし	
8.0	10	4.1 生物多様性の向上		②取組表による場合のポイント数	2 ポイント
		根拠等	[1]、[3]		
[4.2対象外の時は点数を倍]		4.2 土壤環境品質・ブラウンフィールド再生			
0.0	0	根拠等	土壤汚染対策法に基づく汚染除去等の区域指定にない	なし	
[対策不要は対象外]		4.3 公共交通機関の接近性			
5.0	5	4.3.1 公共交通機関の接近性		鉄道駅またはバス停からの距離	8 分圏内
5.0		根拠等	千葉中央駅 徒歩3分		
		4.3.2 交通結節点への接近性、敷地周辺への配慮	評価しない		
3.0	5	4.4 自然災害リスク対策		リスクの合計数	4 種類
		根拠等	該当リスクは4種あり、3種については有効な防災対策を実施している		
16.0	20	合計			

5. 屋内環境					
評価	最大加点	指標		評価値	
適合		必須項目	:建築物衛生管理基準の準拠または質問票への適合		
		根拠等	質問票への適合	なし	
		5.1 自然利用			
2.3	3	5.1.1 屋光利用	5.1.1の点数×2/3＋5.1.2の点数×1/3		
2.0		5.1.1.1 自然採光		開口率	26.0 %
		根拠等	計算式参照		
3.0		5.1.1.2 屋光利用設備		屋光利用設備	1 種類
		根拠等	屋光利用設備有		
1.0	3	5.1.2 通風・排熱			
		根拠等	居室に自然換気開口がある		
2.0	3	5.1.3 眺望・ゆとり		天井高	2.4 m以上
		根拠等	天井高2.4m以上、かつ居住者が十分な屋外の情報を得られる窓の設置		
		5.2 健康・快適			
1.0	2	5.2.1 暑さ・寒さ			
		根拠等	レベル2を満たさない		
2.0	2	5.2.2 主要な居室の冷房・暖房			
		根拠等	居室に冷暖房装置を実装している		
2.0	2	5.2.3 化学汚染物質対策・適切換気			
		根拠等	化学汚染物質を抑える建材を使用している		
1.0	2	5.2.4 騒音・遮音			
		根拠等	レベル2を満たさない		
2.0	3	5.3 防犯対策			
		根拠等	エントランスにセキュリティシステムの設置、かつITVカメラ監視		
13.3	20	合計			

SIDE One



環境性能の特徴

- ・エネルギー使用量の計算値/実績値、水使用量の実績値が高得点であり省エネルギー性能が高い。
- ・新耐震基準を満たしている。
- ・徒歩3分圏内に交通公共機関(鉄道駅)があり利便性が高い。
- ・維持管理が適切に行われており、屋内環境も良好である。

評価機関、評価員記名欄

認証機関記名欄